

爪實顔、こいつ胡亂」でギツクリとなり、左の太刀の束頭に右手をかけて鎧を子供の右首筋にかけろ。玄番も中啓を突出して同時にキツとなる。松王は身體を右に左に傾けて見て最後に右の首筋を見るのが「首筋眞黒々」で、松王はこれも亦首を振つて鎧で放ねる。「その外山家奥在所の子供残らず呼出して」で續いて三人の子供が出る、その都度玄番は中啓で子供の頸を支へて松王を顧るが松王は軽く首を振るのみであ

る。子供が歸つた後「土が産した計芋」の邊りで玄番はもう出て來ぬかと奥を見やり、松王も同様に上手へ氣を配る。「子ばかりよつて立歸る」で源藏は上手障子を開けて現はれ戸浪は納戸口から出て、兩人下手で平伏する。「スハ身の上と」で立上つた松王が玄番を先きに屍體に入り、源藏夫婦の前をズツと通り正面になるのが「待つ間程なく入來る兩人」一杯である。ツメ人形の捕手が船底から玄番の位置よりも少

## 寺子屋の衣裳

### 吉田玉七述

武部源藏 (戻り) 黒羽二重羽織、博多袴

茶色羽二重、胴着に黒襟、黒帶

女房戸浪 鳶色石持、淺黄襟、黒襦子帶

松王丸 (前) 黒豹松臺付、同じく羽織、白地織物の巾着帶

(次) 黒羽二重着付、胴着に白襟

同じく黒二重伊達羽織、茶金野袴

(奥) 白着付、胴着に白襟、卵色麻無地袴

(前) 黒縮緬、茶金の帶

女房千代 (後) 白無垢、白帶

一子小太郎 水淺黄裨目中振袖、胴着に赤襟

同じく羽織袴揃

春藤玄番 萌黄の織物着付、胴着に樺襟

茶襦子の大紋

御臺所 淺黄羽二重、雷の着付、下衣裳に黒襟、

紺金の帶、茶緞子の打掛

管秀才 (前) 黒裨目着付、萌黄金の帶

(後) 白編子の着付、胴着に赤襟、赤地金鬼

衣、八藤の指貫袴

涎くり 木綿立縮着付、小倉帶、胴着に黒襟

詰の子供 木綿後紐の着付、胴着に赤襟

詰の百姓 立縮木綿、横縮木綿の着付

取手 黒木綿着付、胴着に白襟、白博多の帶

(文責、吉水)